

雌阿寒岳

1 概況（平成 15 年 1 月）

1 日に規模の小さな火山性微動が発生し、その 2～3 日前から体に感じない微小な地震がやや増加しましたが、噴煙などの表面現象に変化はありませんでした。2000 年以降ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙活動はやや弱まる傾向にあります。

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は概ね火口上 100～200m 程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

3 地震活動の状況

1 日 02 時 07 分に小さな火山性微動が発生しました（継続時間約 1 分、B 点最大振幅 0.05 マイクロメートル）。微動の発生は 2002 年 3 月 29 日以来のことですが、今回の微動は 2002 年 3 月に比べて継続時間が 1/3、振幅が 1/10 と小さな規模でした。微動発生 of 2～3 日前から微小な地震がやや増加し、地震回数は 1 日あたり数回～40 回程度で増減を繰り返していましたが、活動のピークは 5 日（40 回）で 12 日以降は 1 日あたり 0～5 回と平常レベルで推移しました。震源はほとんどが従来と変わらずポンマチネシリ火口の浅いところと推定されます。

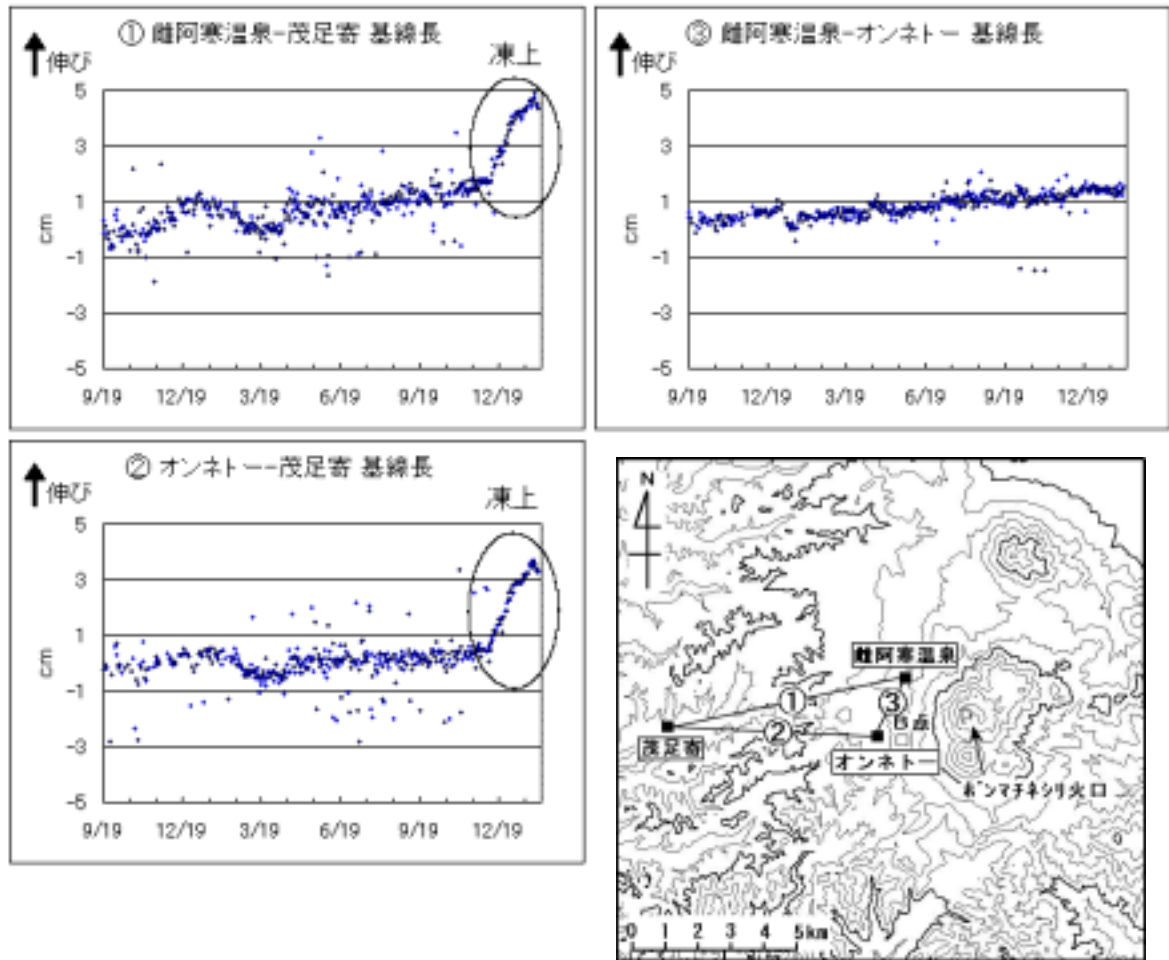
月別地震・微動回数（B 点）

2002～2003 年	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
地震回数	39	204	17	11	20	32	25	34	21	20	39	204
微動回数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

4 地殻変動の状況

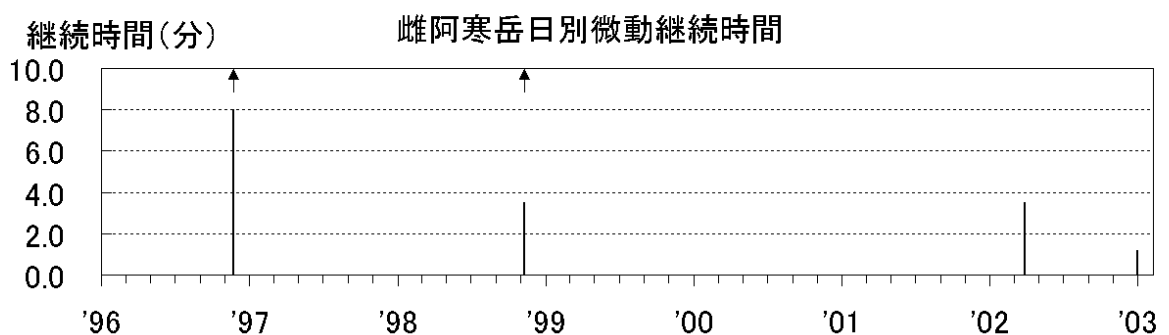
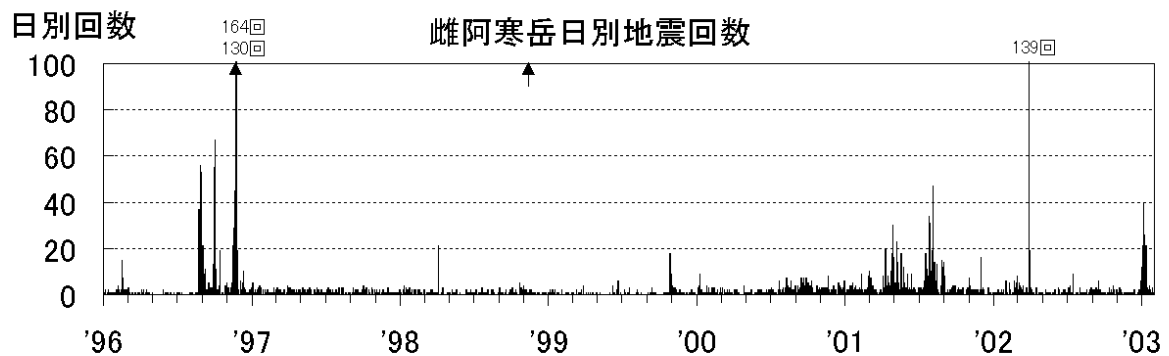
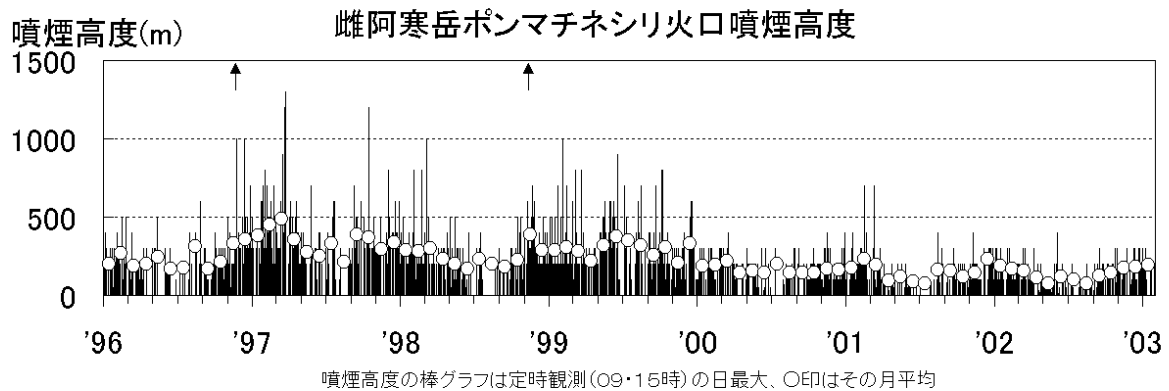
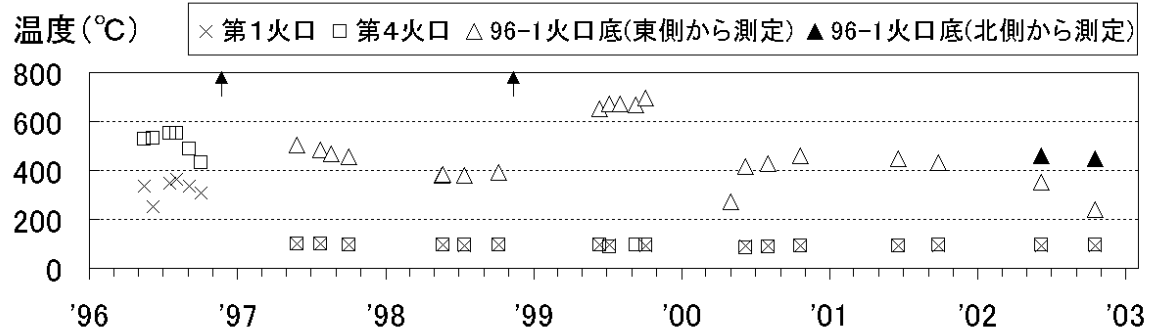
G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。また、昨年 12 月頃から の基線長に見られる顕著な伸びの変化は、 には認められないことおよび現地調査の結果などから、茂足寄観測点周辺の地面が凍上したことによると思われます。

なお、今月から基線長グラフの縦軸の目盛を拡大して表示しています。



雌阿寒岳基線長变化（2001 年 9 月 13 日～2003 年 1 月 31 日）

雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



雌阿寒岳火山活動経過図（1996 年 1 月 1 日～2003 年 1 月 31 日）↑印は噴火